

取扱説明書

このたびはDXアンテナ製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

DXアンテナの製品を正しく理解し、ご使用いただくために、
ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読みください。
お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保存してください。

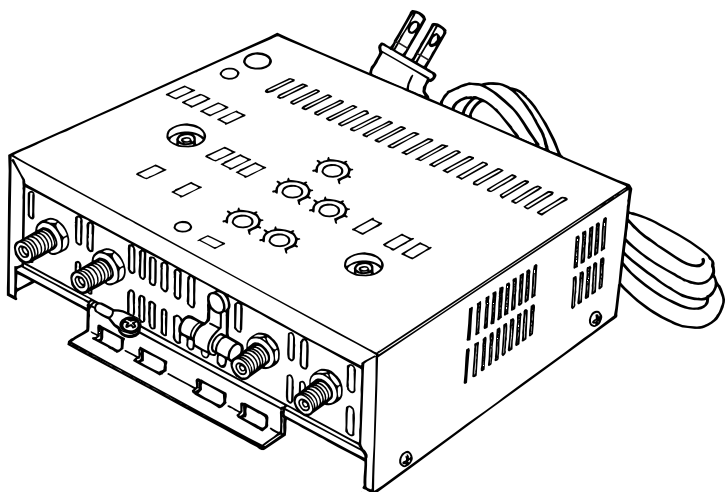


共同受信用双方向増幅器

上り10～60MHz、下り70～770MHz、
CS/BS-IF950～2610MHz増幅用

電源内蔵 (AC100V)・重畳 (DC15V) 共用形 屋内用

CW34S1



製品の特長

- 双方向CATV (上り10～60MHz、下り70～770MHz)、CS/BS-IF (950～2610MHz) 伝送の棟内分配用増幅器として最適です。また、CATV上り帯域が10～55MHz対応の施設でも使用できます。
- CATV上り増幅部にはプッシュプル回路、CATV下り増幅部には高規格IC、CS/BS-IF増幅部には高出力トランジスタを採用し、上りTV4波、下り74波、CS/BS-IF36波の高出力伝送ができます。
- CATV下り入力EQ (TILT、逆TILT) スイッチ、CATV上りTILTボリューム、CATV上り出力ATTスイッチ、CS/BS-IF TILTボリュームを内蔵し、また入力ATTスイッチ、利得調整ボリュームをCATV上り・CATV下り・CS/BS-IF増幅部とも内蔵していますので、状況に応じた繊細な調整が可能です。
- CATV下り、CS/BS-IF入力端子から、コンバータ用電源 (DC+15V 最大6W) を送出できます。
- 上り帯域切換スイッチを内蔵していますので、流合雑音対策が可能です。
- 上り帯域は、運用に応じて増幅、パス、カットの設定ができます。
- 電源はAC100V、DC15V (出力端子より重畳) どちらでも使用できます。
- 誘導雷避雷回路内蔵で、高周波増幅回路・電源回路ともに安心です。また、 $\pm 15\text{kV}$ (1.2/50 μs) のサージ電圧に対しても優れた保護性能を発揮します。
- 小形・高性能化を実現し、アルミ合金製シャーシの採用により放熱効果に優れ、電波漏洩対策も万全です。
- 電源プラグにトラッキング対策品を使用した安全設計です。

安全上のご注意



△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は警告または注意）が描かれています。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。



警告

この内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- テレビ受信関連工事には技術と経験が必要です。お買い上げの販売店もしくは工事店にご相談ください。



- 表示された電源電圧（AC100V 50/60HzまたはDC15V）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。



- この製品は屋内専用です。この製品を屋外に設置したり、風呂場や洗い場など水がかかる場所や、水などの入った容器の近くなどに設置しないでください。
火災・感電の原因となります。



- 万一内部に水などが入った場合は、まずこの製品の電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店もしくは工事店にご連絡ください。そのまま使用すると火災や感電の原因となります。



- この製品に接続する同軸ケーブルには、テレビ電波以外に電流が流れることがあります。電源コードや同軸ケーブルなどを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、（熱器具に近づけたり）引っ張ったりしないでください。火災・感電の原因となります。
電源コード、同軸ケーブルなどが傷んだときは（心線の露出、断線など）お買い上げの販売店もしくは工事店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電などの原因となります。



- この製品を調理台や加湿器のそばなど高温になる場所、油煙や湯気が当たるような場所に設置しないでください。火災や破損の原因となります。



- 強度の弱い場所、不安定な場所、ぐらついたり振動する場所や傾いた場所に設置しないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。



- 高所などに設置する場合は、足場と安全を確保して行なってください。
落ちたり、すべったりしてけがの原因となります。



- この製品の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなど異物を差し込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。



- この製品のケースを開けたり、分解したりしないでください。また、お客様による修理や改造はしないでください。感電やけがの原因となりますし、性能維持ができなくなり、故障の原因となります。



- 万一、煙が出たり、変な臭いがする場合は、すぐにこの製品の電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると火災や感電の原因となります。煙や臭いがなくなるのを確認して販売店もしくは工事店に修理をご依頼ください。



- 取り付けネジや接栓の締め付け力（トルク）に指定がある場合は、その力（トルク）で締め付け、堅固に取り付け固定してください。落下や破損して、感電やけがや故障の原因となります。



- この製品の本体を引っ張り強さ0.39kN以上の金属線または直径1.6mm以上の軟銅線で接地してください。接地しないと避雷やシールドの効果が下がり、感電や故障の原因となります。



- 雷が鳴り出したら、この製品には触れないでください。
感電の原因となります。



⚠ 注意

この内容を見逃して、誤った取り扱いをすると、人が怪傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。
火災・感電の原因となります。



- この製品の開口部（通風孔など）をふさがないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



- 直射日光の当たる所や、湿度の高い所に置かないでください。内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。



- 電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っばるとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



- めれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。



- ヒューズは容量および形状・規格の違うものを使用しないでください。
火災・感電の原因となることがあります。



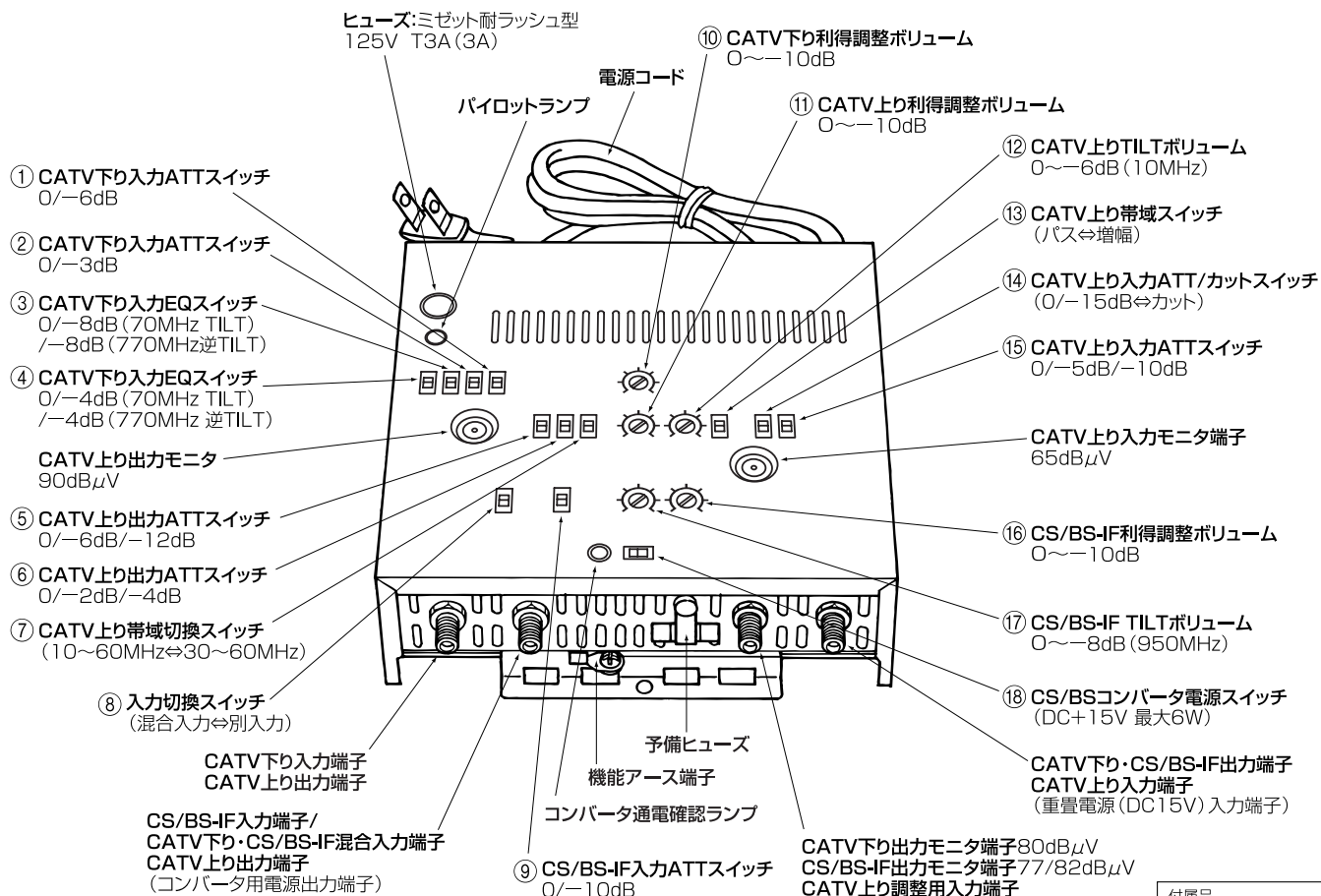
- お手入れの際には、ベンジン・アルコール・シンナーなどは使わないでください。塗装がはげたり、変質することがあります。
お手入れは、柔らかい布で軽く拭き取ってください。化学雑巾を使用する際には、その注意書に従ってください。



お取扱いの前に

- 設置作業は、この取扱説明書をよくお読みのうえ行なってください。
- この製品を屋外に設置する場合は、必ず防水・防雨ならびに放熱処理を施した収容箱などに収容してください。
- 増幅器を落したり、ぶつけたりしないよう注意してください。
- 取り付けに用いる以外のネジを回したり、製品本体のカバーを開けて回路部品に手を触れたりしないでください。
- 電源を供給する前にアースを必ず接地してください。
- ヒューズが切れた時は、原因を確かめてから予備ヒューズと交換してください。ヒューズ交換時は必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 使用時、増幅器に異常が生じた場合は、ただちに電源の供給を止め、原因を確かめてください。
- この製品に取り付ける同軸ケーブルの心線径が0.8mmより太い場合は、必ずコンタクトピン付き接栓をご使用ください。
- 接続する同軸ケーブルの接栓取り付けは、その同軸ケーブル専用の接栓を説明書通り加工してご使用ください。特殊な加工をしたものを使用すると特性の悪化や機器の破損につながります。
- 入出力端子へのF形接栓の接続は、接続ナットを2N・mで締め付けてください（2N・mを越えるトルクでは締め付けないでください）。

各部の名称

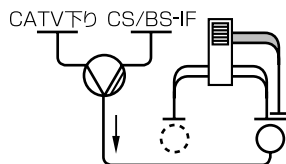


※①～⑧のスイッチ、ボリュームの詳細は対応する番号の操作説明とブロックダイアグラムをご覧ください。



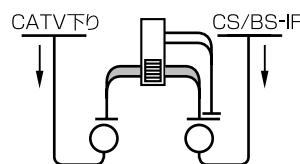
入力切換スイッチの操作

CS/BS-IFとCATV下りの混合入力でご使用の場合



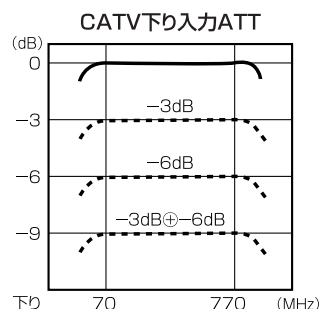
- ⑧ スwitchは上側 (混合入力) にセットしてください。

CS/BS-IFとCATV下りを別々の入力でご使用の場合

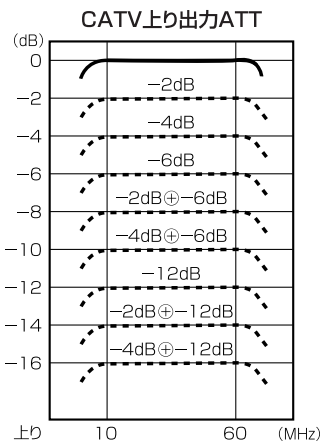


- ⑧ スwitchは下側 (別入力) にセットしてください。

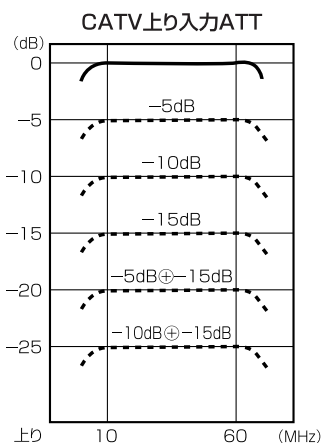
ATTスイッチの操作



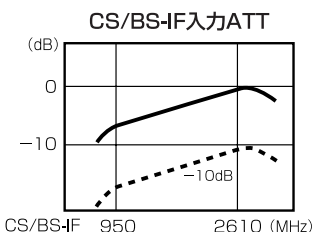
- ①② ●CATV下り入力ATTスイッチを-3dB/-6dB側にスライドさせると70～770MHzがフラットに減衰します。
下り入力ATTスイッチの操作を組合せて0dBから-9dBまで3dBステップの設定が可能です。



- ⑤⑥ ●CATV上り出力ATTスイッチを-2dB/-4dB/-6dB/-12dB側にスライドさせると10～60MHzがフラットに減衰します。(この時、定格出力レベルは選択したATTの加算量だけさがります。)
上り出力ATTスイッチの操作を組合せて0dBから-16dBまで2dBステップの設定が可能です。



- ⑭⑮ ●CATV上り入力ATTスイッチを-5dB/-10dB/-15dB側にスライドさせると10～60MHzがフラットに減衰します。
上り入力ATTスイッチの操作を組合せて0dBから-25dBまで5dBステップの設定が可能です。



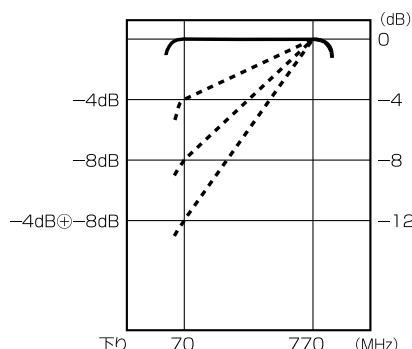
- ⑨ ●CS/BS-IF入力ATTスイッチを-10dB側にスライドさせると、950～2610MHzがフラットに減衰します。

CATV下り入力EQスイッチの操作

③④

- CATV下り入力EQ (TILT) スwitchを-4dB/-8dB側にスライドさせると、770MHz付近を基準として70MHzの利得が減衰します。

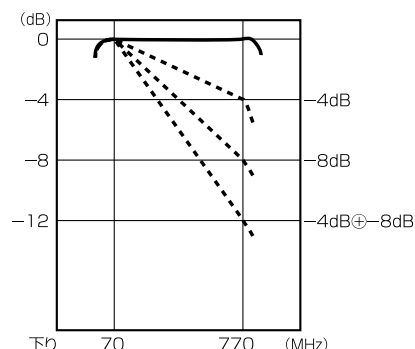
下り入力EQ スwitchの操作を組み合わせると0dBから-12dBまで4dBステップの設定が可能です。



③④

- CATV下り入力EQ (逆TILT) スwitchを-4dB/-8dB側にスライドさせると、70MHz付近を基準として770MHzの利得が減衰します。

下り入力EQ スwitchの操作を組み合わせると0dBから-12dBまで4dBステップの設定が可能です。



利得調整ボリュームの操作

⑩⑪⑫

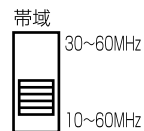
- 利得調整ボリュームは反時計方向にいっぱい回しきった時、利得最小となります。出力モニター端子にスペクトラムアナライザまたはレベルチェッカを接続し、このボリュームにより所定のレベルに合わせてください。
- 利得調整ボリュームは、調整用ドライバで軽く回してください。強く回すとボリュームが破損する恐れがあります。



CATV上り帯域切替スイッチの操作

⑦

- 上り伝送周波数10～60MHzをスイッチ切り換えにより30～60MHzにすることができます。
- ※流合雑音を軽減するために30MHzより低い周波数帯域を使用しない場合、30～60MHz側に切り換えてください。



CATV上り増幅／パス切替スイッチの操作

<CATV上り帯域の増幅>

⑬

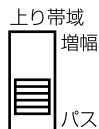
- 上り帯域 (増幅/パス) スwitchを増幅側にスライドさせると、利得25dBの増幅器として動作します。



<CATV上り帯域のパス>

⑬

- 上り帯域 (増幅/パス) スwitchをパス側にスライドさせると、パス回路 (挿入損失0～7dB) として動作します。
- ※パス回路設定時 (パス側) に機能するのは、スイッチ⑭⑮と上り調整用入力端子、上り入力モニター端子です。(スイッチ⑥⑦とボリューム⑪⑫、上り出力モニター端子は機能しません。)



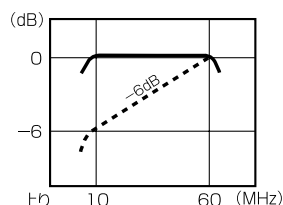
<CATV上り帯域のカット>

⑭

- 上り帯域を使用しない時は、CATV上り帯域スswitchをカット側に切り換えてください。
- ※上り帯域は内部回路で75Ω終端され、上り帯域 (増幅⇄パス) スwitchは機能しませんのでご注意ください。



CATV上りTILT調整ボリュームの操作



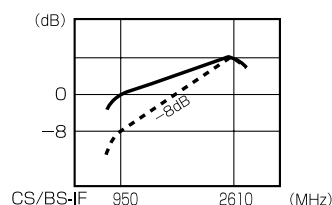
⑫

- CATV上りTILTボリュームを反時計方向いっぱい回しきると60MHz付近を基準にして10MHzの利得が6dB減衰します。

CS/BS-IF TILT調整ボリュームの操作

⑮

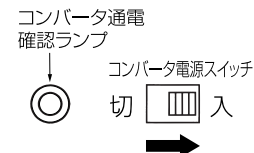
- CS/BS-IF TILT調整ボリュームを反時計方向いっぱい回しきると2610MHz付近を基準にして950MHzの利得が8dB減衰します。



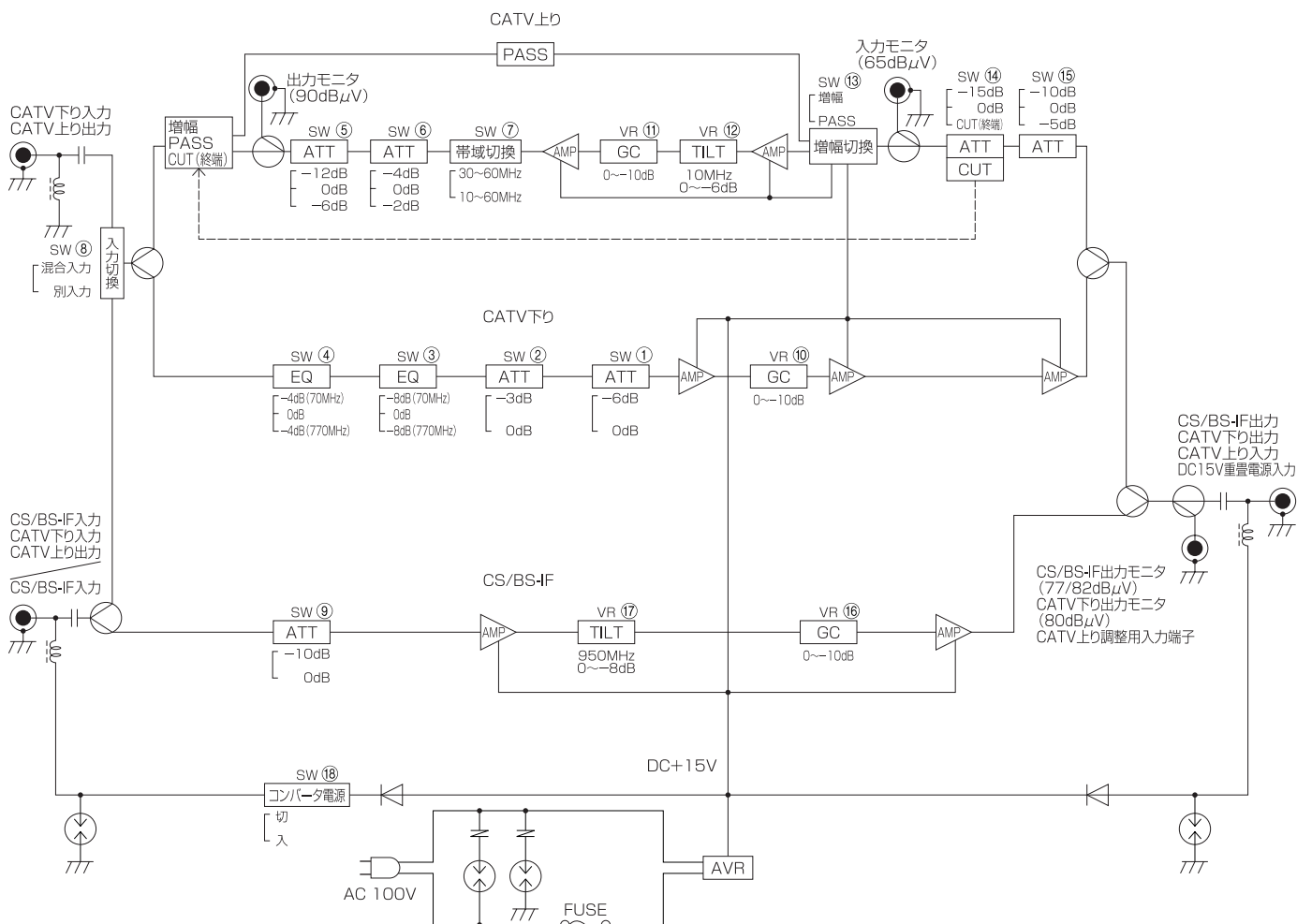
CS/BSコンバータ電源スイッチの操作

⑱

- この製品からCS/BSコンバータ用電源 (DC+15V最大6W) を供給する場合は、コンバータ電源スイッチを“入”にしてください。
- CS/BSコンバータを動作させるための重畳電源を供給できる端子はCATV下り・CS/BS-IF入力端子のみです。
- 電源の供給はCS/BSコンバータへのケーブルの接続を確認した後に行なってください。
- 重畳ラインの機器は必ず電流通過形をご使用ください。
- CS/BSコンバータを重畳電源で動作させる以外の場合に通電しますと事故の原因となりますのでご注意ください。
- 入力端子側でショートしている場合、コンバータ通電確認ランプが消え、増幅器が動作しなくなります。
CS/BSコンバータ電源スイッチを“切”にして、入力端子側のショート箇所を取り除いてください。故障の原因となります。



ブロックダイアグラム



電源の供給

- 電源の供給は、必ず取付工事が終わって、機能アースが接地されていることを確認してから行なってください。電源の供給と同時にこの製品のパイロットランプが点灯します。
- 使用時に異常が生じた場合は、ただちに電源の供給を止め、原因を確かめてください。

＜内蔵電源を利用する場合＞

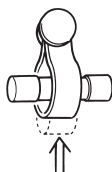
- この製品には電源スイッチがありません。電源コードのプラグをAC100Vコンセントに差し込むことにより、電源が供給されます。

＜重畳電源を利用する場合＞

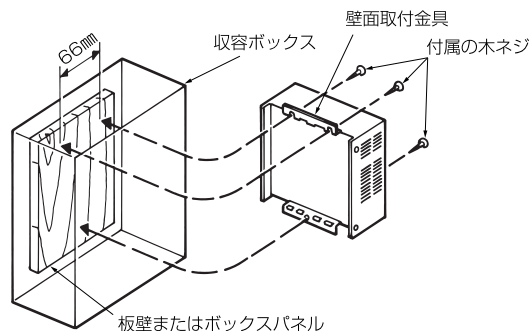
- この製品を動作させるための重畳電源を供給できる端子はCATV下り・CS/BS-IF出力端子、CATV上り入力端子のみです。
- 外部電源装置は、別売のDC15V出力1.1A以上送出可能な電源(PS-1520)をご使用ください。(AC30V出力の電源装置は使用できません)
- 電源コードのプラグには、そのままでも重畳電流が流れることはありませんが、工事のじゃまになる場合にはニッパなどで切り取ってください。このとき電源コードのプラグがAC100Vコンセントに差し込まれていないことを必ず確認してください。
- 内蔵電源(AC100V)で動作中に、出力端子から重畳電源(DC15V)を供給すると、わずかな電圧差によってどちらかの電源で動作します。故障することはありませんが、内蔵、重畳どちらか一方の電源で動作させてください。

予備ヒューズのはずし方

- 予備ヒューズの取りはずしは右図のように折り曲げ部を押し、ホルダ部を広げて、取りはずしてください。
- ヒューズ交換時は必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ヒューズは耐ラッシュ型(125V T3A(3A))を使用してください。



取付方法



- 図のように板壁または収容ボックスのパネル板に壁面取付金具を付属の木ネジ2本で取り付け、増幅器を掛けてください。次に残りの木ネジ1本で増幅器の下側を固定し、しっかりと取り付けてください。
- 収容ボックスは放熱を施した外形寸法600×800×250mm以上のものを使用してください。
- 天井や熱のこもる場所への取り付けは避け、必ず入出力端子が下向きになるように増幅器本体を取り付けてください。他の方向に取り付けると放熱効果が失われ、性能が維持できなくなる場合があります。

簡易デジタル信号レベル確認方法

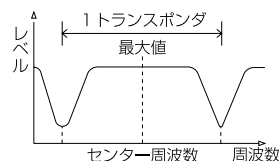
- デジタル信号レベルの確認は、デジタル対応のレベルチェッカまたは、チャンネルパワーの測定できるスペクトラムアナライザで測定確認してください。
- チャンネルパワー等の機能のないスペクトラムアナライザでデジタル信号を測定する場合は、それぞれ次の測定方法により確認してください。

＜地上デジタル放送の場合＞

- ①スペクトラムアナライザのセンター周波数を、各チャンネルの中心周波数に合わせます。
 - ②スペクトラムアナライザを次のように設定します。
周波数スパン (SPAN) 10MHz
分解能帯域幅 (RBW) 1MHz
ビデオ帯域幅 (VBW) 1kHz
 - ③中心周波数のレベルをスペクトラムアナライザで測定します。
 - ④測定したレベルに補正值(RBW:1MHzの場合7.5dB)を加算した値が、その信号のレベルとなります。
- 注) 帯域内に大きなレベル差があったりノイズの影響が考えられるような受信状況の場合、測定誤差が大きくなります。
このような場合は、複数ポイントを測定し、その平均値を信号レベルとしてください。

＜BS/CSデジタル放送の場合＞

- ①スペクトラムアナライザのセンター周波数を測定する信号(1トランスポンダ)の中央に合わせます。
 - ②スペクトラムアナライザを次のように設定します。
周波数スパン (SPAN) 50MHz
分解能帯域幅 (RBW) 1MHz
ビデオ帯域幅 (VBW) 300Hz
 - ③信号の最大レベルをスペクトラムアナライザで測定します。
 - ④測定したレベルに補正值(CSデジタル信号 15dB、BS・110度CSデジタル信号 16.3dB)を加えた値が、その信号のレベルとなります。
- また、分解能帯域幅(RBW)を100kHz、10kHzで測定したときの補正值は下表をご参照ください。
- 注1) 低いレベルのデジタル信号をスペクトラムアナライザで測定する場合には、ノイズの影響などで測定誤差が大きくなります。このような場合は、複数ポイントを測定し、その平均値を信号レベルとしてください。
- 注2) スペクトラムアナライザの機種によってわずかに補正值が異なる場合があります。



補正值		分解能帯域幅 (RBW)		
		1MHz	100kHz	10kHz
CSデジタル (dB)		15	25	35
BS・110度CSデジタル (dB)		16.3	26.3	36.3

RBWを変えたときの値が大きく異なる場合は、誤差が大きいと考えられます。

調整方法

＜CATV下り帯域の調整＞

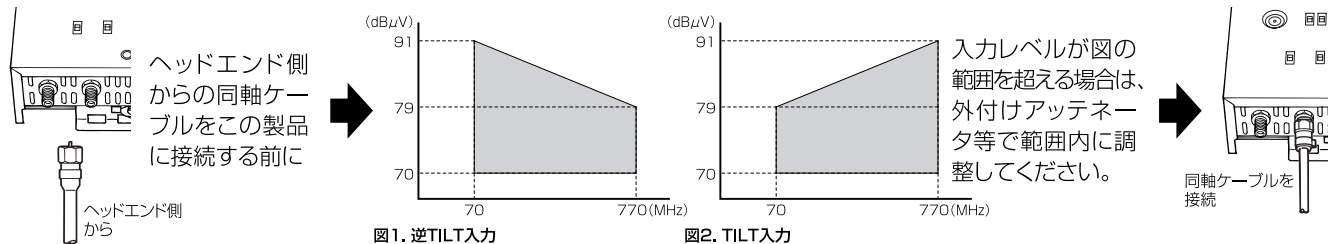
〔事前確認〕

出荷時には、各スイッチとボリュームはつぎのように設定されていますので、接続時やレベル調整時に切り換え、調整してください。

入力EQスイッチ TILT (上) 側
 入力ATTスイッチ -3dB、-6dB (上) 側
 利得調整ボリューム -10dB (減衰) 側

ヘッドエンド側からの同軸ケーブルをこの製品に接続する前に、この製品への入力レベルが図1または図2の範囲内であることを確認してください。

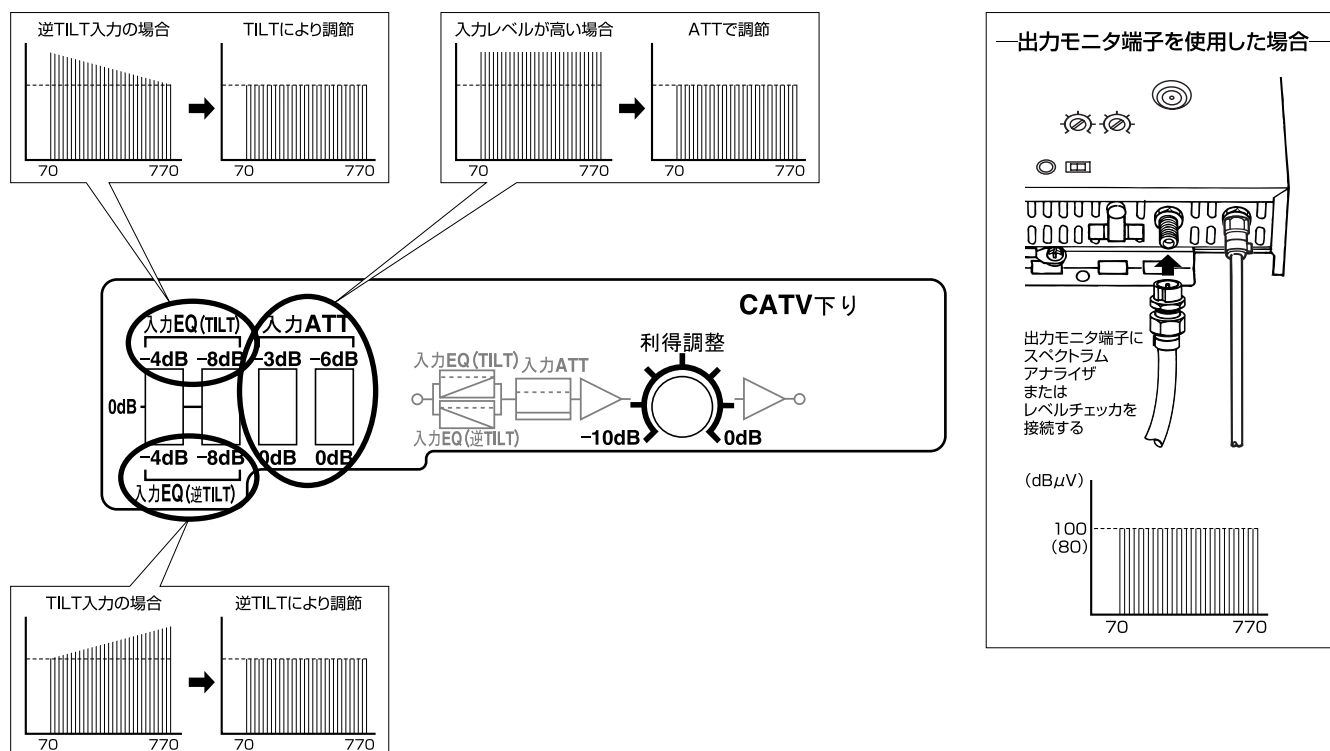
※範囲を超えるレベルを入力すると、故障の原因となる恐れがありますので必ず範囲内で使用してください。



※カスケード接続の場合 後段(端末側)の下り入力レベルが、入力レベル調整機能で調整しきれない場合、前段(ヘッドエンド側)のCATV下り利得調整ボリュームで調整してください。

〔調整〕

1. 利得調整ボリュームを-10dB側いっぱいに戻していることを確認し、入力端子にヘッドエンド側からの同軸ケーブルを接続します。



2. スペクトラムアナライザまたはレベルチェッカを下り出力端子に接続します。

3. 出力端子での出力レベルが**90dBμV程度(70dBμV程度)**になるように入力ATTスイッチおよび入力EQスイッチを切り換えて調整します。

4. 次に出力レベルが**100dBμV(80dBμV)**を超えないように利得調整ボリュームで調整してください。

5. 出力端子に端末側の同軸ケーブルを接続してください。

6. 接続後の出力レベルを確認する際は、モニタ端子を利用してください。

※デジタル信号は、アナログ信号に比べて、10dB低いレベルで運用してください。

※出力モニタ端子は出力レベルから20dB低いレベルが出力されます。定格運用時は、本体に記載されているレベル(取扱説明書では()内に記載されているレベル)となります。

※カスケード接続の場合、増幅器の出力レベルは、定格出力レベルより下げて使用してください。

(一例として、2段カスケードの場合は、出力レベルを定格出力レベルより3dB下げて使用してください。)

※カスケード接続の場合前段増幅器の出力レベルは次段増幅器の中で最も入力レベルが低くなるものに合わせて調整を行なってください。

※調整に関する詳細については管轄ケーブルテレビ事業者へ確認をお願いします。

〈CS/BS-IF帯域の調整〉

〔事前確認〕

出荷時には、各スイッチとボリュームはつぎのように設定されていますので、接続時やレベル調整時に切り換え、調整してください。

入力ATTスイッチ −10dB(上)側 TILTボリューム −8dB(減衰)側
利得調整ボリューム −10dB(減衰)側

CS/BSアンテナ側からこの製品に接続する前に、この製品への入力レベルを測定します。

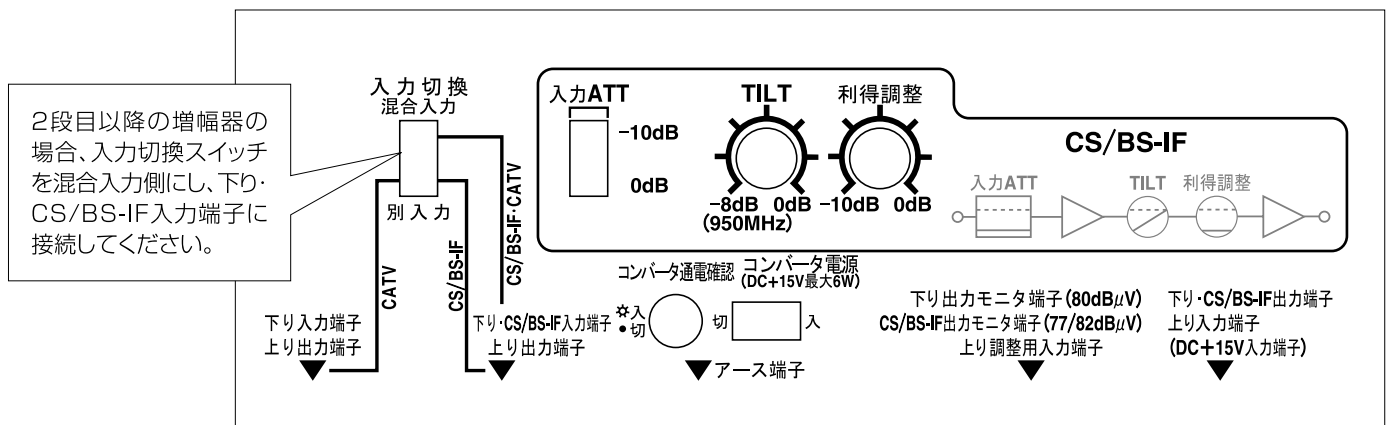
測定したレベルが**80dB μ V (24波時は83dB μ V)**以上ある場合は外付けアッテネータをご使用ください。

(このとき電源をコンバータへ供給する場合は電流通過形のものをご使用ください)

〔調整〕

1. 下り・CS/BS-IF入力端子にアンテナ側からの同軸ケーブルを接続します。

※コンバータへ電源を供給する場合は、コンバータ電源スイッチをONにして、コンバータ通電確認ランプが点灯していることを確認してください。



2. スペクトラムアナライザまたはレベルチェッカを下り・CS/BS-IF出力端子に接続します。

3. 最も高い周波数のチャンネルの出力レベルが**105dB μ V (24波時)**、**102dB μ V (36波時)**を超えないように利得調整ボリュームを調整し、次にBS-IF帯の最も低い周波数のチャンネルの出力レベルが定格出力レベル以下になるようにTILTボリュームで調整してください。

4. 出力端子に端末側の同軸ケーブルを接続してください。

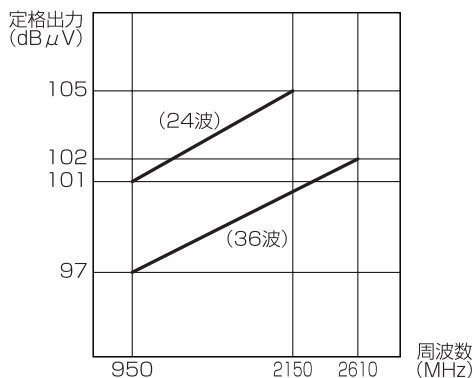
5. 接続後の出力レベルを確認する際は、出力モニタ端子を利用してください。

※出力モニタ端子は出力レベルから20dB低いレベルを出力します。定格運用時は、本体に記載されているレベルとなります。

※カスケード接続の場合、増幅器の出力レベルは、定格出力レベルより下げて使用してください。

(一例として、2段カスケードの場合は、出力レベルを定格出力レベルより3dB下げて使用してください。)

CS/BS-IF帯特性図



950～2150MHzで使用する場合は定格出力は101/105dB μ Vとなり、950～2610MHzで使用する場合は定格出力は97/102dB μ Vとなります。

<CATV上り帯域の調整>

〔事前確認〕

出荷時には、各スイッチとボリュームはつぎのように設定されていますので、接続時やレベル調整時に切り換え、調整してください。			
入力ATTスイッチ	－10dB（上）側	上り帯域スイッチ	パス、カット（下）側
TILTボリューム	－6dB（減衰）側	利得調整ボリューム	－10dB（減衰）側
帯域切換スイッチ	10～60MHz（下）側	出力ATTスイッチ	－4dB、－12dB（上）側

上り帯域の調整は、必ず管轄ケーブルテレビ事業者の了解のもとで行なってください。
※テスト信号発生器が必要になります。
また、テスト信号のレベルは使用するシステムの伝送損失（分岐、分配、同軸ケーブル、壁面端子等）に違いがあります。テスト信号のレベルおよび周波数については加入エリア管轄ケーブルテレビ事業者に確認をお願いします。

他の帯域の結線と調整が完了していることを確認してください。
〔入力調整〕

入力調整方法は2種類あります。下記、調整方法1または調整方法2のいずれかの方法で入力レベルを設定してください。

調整方法1
壁面端子へ適正に設定されたテスト信号を入力し、スペクトラムアナライザまたはレベルチェッカをこの製品の入力モニタ端子に接続します。

調整方法2
この製品の上り調整用入力端子（注1）へ適正に設定されたテスト信号を入力し、スペクトラムアナライザまたはレベルチェッカを入力モニタ端子に接続します。

上側テスト信号の入力モニタレベルが**65dBμV**になるよう入力ATTスイッチで調整してください。調整後、上り帯域スイッチで増幅側に設定してください。

(dBμV)
65
(MHz)

〔出力調整〕

出力モニタにスペクトラムアナライザまたはレベルチェッカを接続し、出力モニタレベルが**90dBμV**を超えないようにTILT、利得調整、出力ATTを調整してください。
また、流合雑音を軽減するために30MHzより低い周波数帯域を使用しない場合は、帯域切換スイッチを30～60MHz側に切換えてください。

※カスケード接続の場合、後段（ヘッドエンド側）の上り入力レベルが入力ATTで調整できない場合は、前段（端末側）のTILT、利得調整、出力ATTで調整してください。

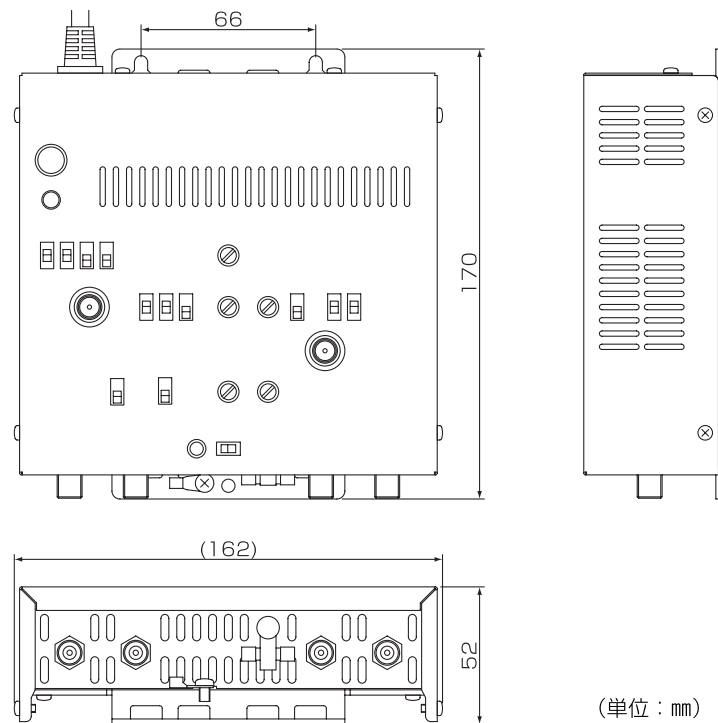
(dBμV)
90
(MHz)

注1) 上り調整用入力端子に入力される信号は、20dB減衰した後、上り回路に混合されますので**上り入力端子に到達するレベルより20dB高い値を入力**してください。
※入力モニタ端子は入力レベル調整後のレベルから20dB低いレベル、出力モニタ端子は出力レベルから20dB低いレベルを出力します。定格運用時は、本体に記載されているレベルとなります。
※上り調整方法は管轄ケーブルテレビ事業者により異なることがありますので詳細は加入エリアの管轄ケーブルテレビ事業者へ確認をお願いします。

使用上のご注意

- 重畳電源を利用する場合は、この製品と電源装置を結び同軸ケーブルに電流が流れます。途中には通電形機器以外は絶対に挿入しないでください。
- 電源を供給する前に増幅器本体の機能アースを必ず接地してください。機能アースは安全アースではありません。
- この製品には2段階切換スイッチと3段階切換スイッチがあります。2段階切換スイッチは必ず上下のどちらかまたは左右のどちらかに設定してください。2段階切換スイッチを中央に設定すると動作しなくなりますので注意してください。
- スイッチを切り換える場合、切換操作を数回行い、スイッチ接点部の活性化(クリーニング)をしてください。
- 出力モニタは出力レベルから20dB低い値を示しますが、出力端子にケーブルが接続されていないと正確な値を示しません。より正確なレベル測定を行う場合、出力端子を使用してください。
- この製品はCATV用増幅器ですので、CATV施設やヘッドエンドなどのある施設以外で使用しないでください。
- 放熱性に富むアルミ合金製シャーシを採用していますので、筐体が熱を持ちますが異常ではありません。
- 天井や熱のこもる場所への取り付けは避け、必ず入出力端子が下向きになるように増幅器本体を取り付けてください。他の方向に取り付けると放熱効果が失われ、性能が維持できなくなる場合があります。
- 上り帯域を使用しない場合は、CATV上り帯域スイッチをカット側にしてください。
- カスケード接続で使用される場合は、定格出力レベルより下げて使用してください。またカスケード台数はできるだけ2台以内にしてください。
- ヒューズは耐ラッシュ型(125V T3A(3A))を使用してください。

外形寸法図



規格特性

品名	共同受信用双方向増幅器			
品番	CW34S1			
周波数帯域 (MHz)	10～60	70～770	950～2150	950～2610
最大伝送波数 (波)	4	74+デジタル (注1)	24	36
標準利得 (dB)	25以上 (増幅時) / 0～-7 (パス時)	30	27/31	27/32
定格出力レベル (dBμV)	110	100	101/105	97/102
利得調整範囲 (dB)	0～-10以上連続可変			
入力 A T T (dB)	0、-5/-10、-15/カット (注2)	0、-3、-6 (注2)	0、-10	
入力 E Q (dB)	-	0、-4、-8 (70MHz) / 0、-4、-8 (770MHz) ※ (注2)	-	
T I L T (dB)	0～-6以上連続可変	-	0～-8以上連続可変 (注3)	
出力 A T T (dB)	0、-2/-4、-6/-12 (注2)	-	-	
伝送帯域内周波数特性 (dB)	±1.0以内 (注4)	±2.0以内 (注4)	任意の34.5MHzで±1.0以内、全帯域で±2.5以内 (注4)	
C S O 、 ピ ー ト (dB)	-60以下	-60以下	-	
C T B (dB)	-60以下	-60以下	-	
I M 3 (dB)	-	-	-59以下	-63以下
雑音指数 (dB)	8以下	8以下	8以下	
V S W R	2.0以下		2.5以下	
利得安定度 (dB)	±2.0以内		±3.0以内	
ハム変調 (dB)	-60以下			
入出力インピーダンス (Ω)	75 (F形)			
耐雷性	入出力端子 電源端子 ±15kV (1.2/50μs)			
使用温度範囲 (℃)	-10～+40			
コンバータ供給電源	DC+15V 6W			
電源 (V)	AC100 (50/60Hz) DC15V 650mA (コンバータ用電源送出時1050mA)			
消費電力 (W)	14 (コンバータ用電源 6W 送出時 21)			
外形寸法 (mm)	170 (H) × 162 (W) × 52 (D)			
質量 (kg)	0.9			

注1) デジタル (550～770MHz) は-10dB運用 注2) 加算式 注3) 2610MHz基準 注4) 利得最大時
※70MHzと770MHzは切り換えです。(同時に設定することはできません。)
規格は改良により、変更させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

※この製品を処分するときは、産業廃棄物として処理してください。

詳しいお問合せは、もよりのDX製品取扱店または下記のDXアンテナ各営業所をご利用ください。

- ・札幌支店 TEL.(011) 822-1251(代)

・旭川出張所 TEL.(0166) 37-5830(代)

・東北支店 TEL.(022) 243-2141(代)

・盛岡出張所 TEL.(019) 636-1581(代)

・郡山出張所 TEL.(024) 921-7131(代)

・東京支店 TEL.(03) 3526-5402(代)

・多摩営業所 TEL.(042) 572-4911(代)

・横浜支店 TEL.(045) 651-2557(代)

・厚木出張所 TEL.(046) 225-6102(代)

・埼玉支店 TEL.(048) 652-3311(代)

・宇都宮営業所 TEL.(028) 659-1100(代)

・新潟営業所 TEL.(025) 276-2166(代)

・茨城営業所 TEL.(029) 826-5341(代)

・千葉支店 TEL.(043) 253-1121(代)

・木更津出張所 TEL.(043) 823-6281(代)

・柏出張所 TEL.(04) 7192-1681(代)

・静岡営業所 TEL.(054) 281-0141(代)

・浜松営業所 TEL.(053) 461-6885(代)

・中部支店 TEL.(052) 771-5106(代)

・松本営業所 TEL.(0263) 27-7801(代)

・豊橋出張所 TEL.(0532) 69-2370(代)

・三重出張所 TEL.(059) 226-1643(代)

・金沢支店 TEL.(076) 261-9988(代)

・富山営業所 TEL.(076) 422-7878(代)

・大阪支店 TEL.(06) 6304-5651(代)

・堺営業所 TEL.(072) 278-5311(代)

・京都営業所 TEL.(075) 382-6141(代)

・神戸支店 TEL.(078) 579-8550(代)

・姫路出張所 TEL.(079) 283-5920(代)

・広島支店 TEL.(082) 237-5331(代)

・岡山営業所 TEL.(086) 245-2948(代)

・高松営業所 TEL.(087) 868-1222(代)

・松山営業所 TEL.(089) 925-3826(代)

・山陰出張所 TEL.(0853) 24-2343(代)

・福岡支店 TEL.(092) 541-0168(代)

・北九州営業所 TEL.(093) 922-6556(代)

・長崎出張所 TEL.(095) 842-0780(代)

・大分営業所 TEL.(097) 504-7799(代)

・熊本営業所 TEL.(096) 325-0711(代)

・南九州営業所 TEL.(099) 267-8211(代)

・沖縄営業所 TEL.(098) 874-6202(代)

(2007年5月現在)

DXアンテナ株式会社

本社/〒652-0807 神戸市兵庫区浜崎通2番15号 TEL.(078) 682-0001(代) 東京支社/〒160-0022 東京都新宿区新宿2丁目11番4号 ストークビル長崎 TEL.(03) 3341-4569(代)
カスタマーセンター TEL.(078) 682-0455 受付時間 9:30～12:00/13:00～17:00 (土曜・日曜・祝日および夏季休暇・年末年始は除く) ホームページアドレス <http://www.dxantenna.co.jp/>